

**授業概要**

本演習では、1. 大学生活に慣れること、2. 学問の意義を知ること、3. 資格取得のコツを学ぶことを指導します。まず、大学 4 年間でどのように過ごせばいいのか、時間割の作り方やノートの取り方、試験の受け方などをお知らせします。次に大学で学ぶ意義を知っておきましょう。学問とは何か、石門心学の創始者石田梅岩 (1685~1744) の『都鄙問答』をもとに学問の意義について輪読をします。

後半は、日商簿記の資格取得について指導します。「大学在学中に資格くらいは取りたい」という学生への伝授です。高校時代とは異なった視点から勉強のやり方、教科書の読み方、問題集の活用を実践してもらいます。この演習は、日商簿記 3 級・2 級・1 級合格を目指す学生が対象です。将来は、公認会計士や税理士の道が開かれます。

**授業計画**

(注意) 新型コロナのため授業内容の一部変更もあります。

第 1 回	第 1 部 ガイダンス：大学生活に慣れること、大学であなたは何を学びますか？
第 2 回	① 効率的な「時間割表」作成、授業の受け方、ノートの取り方、定期試験の受け方
第 3 回	② 図書館の使い方、資料の探し方、資格取得のコツとは？ 心的ストレスの対応どうする？
第 4 回	第 2 部 学問の意義とは？：学ぶ「信念」をもち「正直・勤勉・儉約」に実践しよう。
第 5 回	① 石田梅岩『都鄙問答』：武士の道、商人の道、学問の道
第 6 回	② 石田梅岩『都鄙問答』：天知る、地知る、我知る、人知る⇔「四知」のおしえ
第 7 回	③ 石田梅岩『都鄙問答』：天人合一、尽心知性、不立文字 / 図書館ツアー実施
第 8 回	第 3 部 「日商簿記」資格取得のコツ？ 目標の明確化 (例：公認会計士、税理士になる)
第 9 回	① 簿記教科書の「目次」体系化、教科書を 3 回転読み込む。そのコツ 1H25 頁。
第 10 回	② 簿記一巡の流れを把握、仕訳と元帳転記を素早くこなせ。
第 11 回	③ 貸借対照表と損益計算書の勘定科目を音読みし、その構造を何度もノートに筆写しよう。
第 12 回	④ 試算表、精算表をゲーム感覚で解答しよう、とにかく反復学習しよう。
第 13 回	⑤ 問題集を 3 回転、答えを暗記するまで繰り返す、あきらめないこと。
第 14 回	⑥ 夏休みに日商簿記 3 級のネット試験にもう合格しよう。
第 15 回	⑦ 日商簿記 3 級の予想問題をみんなで挑戦してみよう。 (課題レポート提出)
第 16 回	定期試験実施

**到達目標**

1. 大学 4 年間を楽しく過ごせる生活のリズムを自分で作ること。
2. 石田梅岩の説いた「学問の道」を理解し、その実践を心がけること。
3. 「日商簿記」等の資格試験を受験するための心と身体の準備を十分に整えること。

**履修上の注意**

1. 春期の正課授業「初級簿記」は、必ず履修登録すること。
2. 『日本経済新聞』を定期購読し、毎週 1 冊「岩波新書」を読み、毎月 1 本「映画」を観て見聞を広めよ。

**予習・復習**

- ・石田梅岩の『都鄙問答』は、何度も熟読すること。
- ・「簿記」の教材は、目次を体系的に把握し、その項目を自己講義してください。

**評価方法**

- ・課題レポート提出 50%、定期試験 50%で総合評価をします。
- ・授業態度不良者は「不可」とする。

**テキスト**

- ・教科書名：都鄙問答
  - ・著者名：石田梅岩、城島明彦現代訳 (2016)
  - ・出版社名：致知出版
  - ・出版年 (ISBN)：978-4-8009-1126-1
- 1600 円+税

**授業概要**

これから本学で4年間学ぶにあたって最初に勉強することが重要であると思われる経済の基礎を学びます。これらの知識は、実社会では常識ですので、大学の早い段階で修得しておくことが望まれます。この演習では、基本的にはゼミ生全員が毎回指定された教科書の箇所を前もって読んできて、事前に決められた担当のゼミ生が報告資料を作成、配布したうえで発表し、その内容について全員で議論する形で、進めていきます。したがって、本演習では事前準備や当日の議論などを通じて、大学における勉学の進め方の基本を修得することができると思います。

**授業計画**

第 1 回	経済経営学部で勉強すること
第 2 回	経済とは何か
第 3 回	ミクロ経済とマクロ経済
第 4 回	フローとストック
第 5 回	GDPとは何か
第 6 回	好況と不況
第 7 回	市場経済と計画経済
第 8 回	市場経済における政府の役割
第 9 回	中央銀行の役割（金融政策）
第 10 回	通貨が持っている3つの機能
第 11 回	金利はどのような意味を持つのか
第 12 回	インフレーションとデフレーション
第 13 回	為替レートとは何か
第 14 回	国際収支とは何か
第 15 回	財政の役割と社会保障
第 16 回	課題レポートの提出

**到達目標**

本演習で学ぶ経済の基本的知識は、就活がはじまるまでには当然身に付けておかななくてはならないものです。そのような経済の基礎を適切に理解したうえで、報告資料を適切に作成し、効果的なプレゼンテーションを実施できることを目指します。

**履修上の注意**

予習、復習をきちんとすることと、毎回出席することを求めます。

**予習・復習**

指定された文献や資料を事前に理解するとともに、各回のゼミ終了後に内容を復習することを求めます。

**評価方法**

ゼミでの発表や発言（50%）、課題レポート等（50%）に基づき、総合的に評価します。

**テキスト**

- 教科書名：『これだけは知っておきたい「経済」の基本と常識』改訂新版
- 著者名：吉野 薫
- 出版社名：フォレスト出版
- 出版年（ISBN）：2021年12月（ISBN 978-4-86680-154-4）本体 1,400円＋税

**授業概要**

この演習の意義は、大学生活に慣れてもらうこと、大学講義に必要な基礎知識を習得すること、就職意識を持たせることにある。すなわち、大学で学ぶ目標をしっかりと持つこと、読むこと、調べること、書くこと、報告することなど大学授業や今後の就学に必要なスキルを修得することにある。

**授業計画**

第 1 回	本演習の概要
第 2 回	大学で学ぶ目標の設定①（履修計画を立てる）
第 3 回	大学で学ぶ目標の設定②（就学に必要なスキルの修得）
第 4 回	大学で学ぶ目標の設定③（大学生活や自分の将来像を描くことなど）
第 5 回	大学講義の受け方やレポート作成方法（文章の読解力の向上①）
第 6 回	大学講義の受け方やレポート作成方法（文章の読解力の向上②）
第 7 回	学力調査
第 8 回	図書館ツアー（文献の検索方法を学ぶ）
第 9 回	文章の要約力とレジュメの作成（1）
第 10 回	文章の要約力とレジュメの作成（2）
第 11 回	文章の要約力とレジュメの作成（3）
第 12 回	文章の要約力とレジュメの作成（4）
第 13 回	文章の要約力とレジュメの作成（5）
第 14 回	各自のテーマによる調査発表と討論（1）
第 15 回	各自のテーマによる調査発表と討論（2）
第 16 回	まとめ（レポートの提出）

**到達目標**

この演習は、充実な大学生活や実のある授業を通じて、広い教養を身につけることを念頭に置き、大学における学習に必要な基礎的学力を向上させることを意図としている。

**履修上の注意**

- ・ 毎回必ず出席してほしい。
- ・ 演習は参加型授業なので、積極的に、発言や議論をしてほしい。
- ・ 就職試験に関する指導（ニュース検定試験などの実施）を行う。

**予習・復習**

- ・ 配布資料を事前に目を通しておくこと
- ・ 発表や講義の要点をまとめること
- ・ 数回分の課題レポートを提出してもらう。

**評価方法**

レジュメの作成と発表（30%）、課題レポート（60%）、ゼミでの積極性（10%）などを総合的に評価する。

**テキスト**

- ・ 教科書名：大学生学びのハンドブック
- ・ 出版社名：世界思想社
- ・ 出版年（ISBN）：9784790713746
  
- ・ 必要に応じて、資料を配布する。

**授業概要**

大学で今後必要とされる様々な教養知識のもと、高校までの学修内容の上に積み重ねられていきます。教養演習Ⅰでは、経済経営学部の専門教育に繋がる各重要な事項やキーワードについて、ディスカッションやプレゼンテーションを通して、コミュニケーション能力向上と基礎知識の復習の機会となるよう指導します。できるだけ楽しみながら演習できるよう環境を整えて指導していきます。

**授業計画**

第1回	人間とは？人類とは？地球とは？
第2回	日本という国はどんな国？グローバルとは？
第3回	話そう！笑おう！語ろう！
第4回	文章を書いてみよう！
第5回	現代の政治① 民主主義、基本的人権
第6回	現代の政治② 日本国憲法、平和主義
第7回	現代の政治③ 市場経済
第8回	現代の政治④ 国会、内閣、裁判所
第9回	現代の政治⑤ 国際政治
第10回	現代の経済① 資本主義、社会主義
第11回	現代の経済② 現代の企業、市場経済
第12回	現代の経済③ 国民所得と経済成長
第13回	現代の経済④ 社会保障と福祉
第14回	現代の経済⑤ 国際経済
第15回	まとめ
第16回	試験

**到達目標**

- 大学の学びの基礎について理解する。
- 人間の特性について理解する。
- 高校までの復習ができる。
- 政治・経済の基礎について理解する。
- コミュニケーション能力やプレゼンテーション能力の基本を習得できる。

**履修上の注意**

まずは大学生活に慣れることが重要ですので、休まず積極的に参加すること。

**予習・復習**

事前に教科書をよく読んで、予習してくることと、終了した単元を復習すること。

**評価方法**

発表点（25点）、レポート点（25点）、学期末試験（50点）

**テキスト**

- 教科書名：理解しやすい政治・経済
- 著者名：松本保美監修
- 出版社名：文英堂
- 出版年（ISBN）：978-4578242086

**授業概要**

経済、経営とは何かについて学ぶ最初の入り口となることを目指しています。そのための1つの手立てとして、現在の日本の経済と企業の現実について学習し理解することが有益です。第1に、日本の経済を構成する幾つかの主要な産業の実態や特徴、第2に、日本企業の海外進出、これらについて知ることです。特に、後者について学ぶ理由は、日本の多くの大企業の活動が、今日、顕著な国際化（グローバル化とも言います）を遂げているからです。

この演習では、受講生の皆さんが、我が国の主要な産業や企業の現状、中国、アメリカなどでの日本企業の活動の実態などを知ること、現代経済と企業経営についての基礎的な理解が得られるように指導します。

**授業計画**

第1回	はじめに一演習の進め方
第2回	大学で学ぶということ
第3回	経済学と経営学
第4回	日本経済の現状を知る(1)－自動車産業
第5回	日本経済の現状を知る(2)－電気機械産業
第6回	日本経済の現状を知る(3)－鉄鋼業
第7回	日本経済の現状を知る(4)－繊維・アパレル産業
第8回	日本経済の現状を知る(5)－小売業・コンビニエンスストア
第9回	日本経済の現状を知る(6)－化粧品産業
第10回	日本企業の国際化を知る(1)－企業の海外進出とは何か
第11回	日本企業の国際化を知る(2)－台湾・韓国・東南アジアへの進出
第12回	日本企業の国際化を知る(3)－アメリカへの進出
第13回	日本企業の国際化を知る(4)－西ヨーロッパへの進出
第14回	日本企業の国際化を知る(5)－中国への進出
第15回	日本経済と日本企業の現段階
第16回	学期末試験

**到達目標**

まず第1に、資料を読み込み、これに基づいて発表し、討論できるようになることです。第2に、日本経済と日本企業についての理解を深めることです。そして、第3に、企業の海外進出、外国での活動についての現状を知ることです。

**履修上の注意**

- (1) 病気などの場合を除いて、毎回欠かさず出席してください。欠席の場合は、メールで事前に連絡してください（アドレスはのちに伝えます）。遅刻の場合は理由を説明してください。
- (2) 演習のメンバーの意見を理解し、それに対して自分の考えを述べられるように心掛けてください。

**予習・復習**

事前に配布する資料をよく読んで予習してきてください。演習の終了後は、何を学んだか、資料などを読み直して復習してください。

**評価方法**

テキストの報告と討論への参加で60%、学期末試験40%で評定します。

**テキスト**

教科書の使用は予定していません。学習・討論資料を予め配布します。

**授業概要**

テーマ：社会科学、経営学、マーケティング論、スポーツマーケティング論  
 基礎演習Ⅰは、今後4年間の大学生活における勉強の仕方・考え方を身につけることを目的としています。  
 当演習では、最初に大学での勉強の方法について学び、次に、社会科学とは何か、経済学と経営学はどう違うのかについて学び、そのうえで、経営学の一分野であるマーケティング論とスポーツマーケティング論の入り口を学びます。

**授業計画**

第 1 回	基礎演習Ⅰの概要
第 2 回	高校までの勉強と大学での勉強
第 3 回	テキストの読み方
第 4 回	レポートの書き方
第 5 回	資料の探し方
第 6 回	ゼミ発表の仕方
第 7 回	社会科学とは何か
第 8 回	経済学と経営学の違い、経営学の各分野の探訪
第 9 回	経営学における「管理」と「戦略」の考え方
第 10 回	マーケティングとは（1）—— さまざまな定義
第 11 回	マーケティングとは（2）—— マーケティングの4P
第 12 回	スポーツマーケティングとは（1）—— 「観る」スポーツと「する」スポーツ
第 13 回	スポーツマーケティングとは（2）—— オリンピック・マーケティング
第 14 回	参加学生によるパワーポイント・プレゼンテーション（1）
第 15 回	参加学生によるパワーポイント・プレゼンテーション（2）
第 16 回	筆記試験等（レポート・最終報告を含む）

**到達目標**

- ◎大学における基本的な勉強の仕方、考え方を身につけること
- ◎社会科学、経済学、経営学の全体的イメージを理解すること
- ◎マーケティング論、スポーツマーケティング論の入り口の考え方を理解すること

**履修上の注意**

- ◎教養演習は1限に設定されているため、かなり遅れてくる学生も見受けられますが、高校までの時間割に比べて決して早い時間というわけではありません。遅刻・欠席は厳禁です。
- ◎昨今、ラインは使えるがメールは苦手という学生がしばしばいますが、大学の学生番号に割り振られたメールは、演習や大学からの重要な情報がそのメールアドレスにきたり、課題をメールに添付して提出したりするということもしばしばありますので、必ず点検できるようにしてください。
- ◎こんな質問をすると恥ずかしいと思って発言しない学生より、間違ってもいいから自由に発言する学生が望ましいと思います。勉強のための予備知識は全く要りませんが、説明をきちんと聞く力は必要です。
- ◎4年後に社会に出ていくにあたって、時事問題の知識は重要です。必要に応じて、時事問題の確認などもしたいと思います。

事前にわたす資料などを演習前によく読み、演習終了後には復習してください。また、学生によるプレゼンテーションのための準備のために、文献やネットを自分で調べることは必須です。

**評価方法**

演習への出席を前提とし、演習への討論など参加態度（25%）、演習で出された課題の遂行の状況（25%）、最終期末レポート（50%）によって評価します。  
 演習では、積極的に疑問や意見を述べる学生は高く評価されます。

**テキスト**

テキストは使わず、適宜、資料を配り、またインターネットで調査したウェブサイトを利用します。  
 参考文献は、とりあえず、以下をご参照ください。  
 ◎世界思想社編集部編『大学生学びのハンドブック 5訂版』世界思想社、2021年 ISBN: 9784790717492

©薄井和夫編『マーケティング』（文部科学省検定高校教科書）東京法令出版、2022年4月〔刊行予定〕

**授業概要**

1年次の教養演習は、2、3、4年次と徐々に専門的な内容に進んでゆく最初の段階の演習である。「演習」とは、何かのテーマについて教員から講義を受けて理解して終わるものではなく、学生自らが何らかの目的やテーマに対して、何かの行動を起こして初めて成り立つものであると考えている。そこで、教養演習Ⅰでは最初に社会に出るために、就職するためにどのような人が求められているかを理解することにはじまり、そのための演習を行う。その際の題材は、社会的な課題にかかわる資料を考えている。

大学4年間でどのように過ごし、どのような就職を目指すのかは、常に意識してもらうように情報提供し、演習してもらうつもりである。

**授業計画**

第1回	ガイダンス・キャリアとは？
第2回	卒業して、その後に働く意味を考える
第3回	社会人基礎力の理解する
第4回	社会人基礎力を身につけるための方法を考える
第5回	資料（例：日本の人口・都市）を使用した演習
第6回	資料（例：日本の人口・世帯）
第7回	資料（例：日本の人口・寿命）
第8回	資料（例：日本の経済）
第9回	資料（例：日本の産業）
第10回	資料（例：日本の生活①）
第11回	資料（例：日本の生活②）
第12回	資料（例：日本のエネルギー）
第13回	調べてきた内容を報告する①
第14回	調べてきた内容を報告する②
第15回	まとめ
第16回	定期試験（または定期試験に代わるレポート）

※人数等により進度と内容は随時調整します。上記は例示であり、資料は適宜、時事的なものに変更します。

**到達目標**

テキスト等の資料の内容を適切にまとめることができるようになる。  
自分の意見を適切な文章で正しく伝えることができるようになる。  
自分の意見を発言で他人に正しく伝えることができるようになる。

**履修上の注意**

テーマは上記のとおりだが、到達目標に示したように、講義ではなく演習なので、聞くだけの内容を考えていない。課題やグループワークも含めて受講者が積極的に発言等をしてもらう。

また、就職活動における「教養」は、上記のような時事についての理解のみならず、適性試験（言語・非言語）という形式で問われることが多いため、適宜、そちらも指導する。

**予習・復習**

授業内容に応じた課題を予習し、他人の意見等を聞いてまとめる復習を予定している。

**評価方法**

課題を含む平常点45%・定期試験（または定期試験に代わるレポート）55%程度で評価する。  
なお、既定の出席回数に満たない場合には、原則として単位を認定しない

**テキスト**

未定。  
参考文献は適宜紹介する。

## 授業概要

佐藤正勝ゼミでは、次の①、②及び③の3点を指導します。

[①] 皆さんの就職に大きな影響をもつ経済問題等（例：SDGs）について、各班ごとに、独自に調査して、発表し議論します。世界では、(日本でも)例えば、貧困が問題となっています。どうしたら、貧困問題を減らせるのか、具体的な方策を考えて、発表し合ひましょう。議論の仕方、発表の仕方等を指導します。

[②] 卒業後の目標、例えばどのような職業に就くといいの、一緒に考えてみましょう。将来の目標が決まると、勉強がどんどん進みますので、いい会社に入れます。このことは、佐藤ゼミの先輩が証明しています。

そこで、ゼミ生の皆さん、まずは、「自分の魅力は何か」、考えてみて下さい。それが、将来の目標につながり、同時に、就職時に、アピールポイントにもなります。ゼミ生一人ひとりの「なりたい自分」探しをすることにしています。どうすれば将来の目標を持つことができるのか、指導します。

[③] 皆さんは、大学生になりました。「考える」大学生になりましょう。佐藤正勝ゼミのゼミ訓は、2つ、「なぜ?なぜ?なぜ?」と「だから何だったの?」です。謎めていますね。楽しみにしてして下さい。

## 授業計画

第 1 回	ガイダンス（自己紹介、授業の進め方全般、配付資料等の説明）
第 2 回	前提事項の説明：発表資料の読み方、分析の仕方、プレゼンテーションの仕方等の説明
第 3 回	第一テーマ(各班ごとに異なるテーマ)について、現状、問題点、解決策の調査・検討。
第 4 回	第一テーマについて、班ごとに、議論し、意見の相異を調整し、まとめる。
第 5 回	第一テーマについて、発表し、議論する。
第 6 回	就職試験対策：配付資料に基づいて、学修し、テストし、就職試験に備える。
第 7 回	第二テーマ(各班ごとに異なるテーマ)について、現状、問題点、解決策の調査・検討。
第 8 回	第二テーマについて、班ごとに、議論し、意見の相異を調整し、まとめる。
第 9 回	第二テーマについて、発表し、議論する。
第 10 回	就職試験対策：配付資料に基づいて、学修し、テストし、就職試験に備える。
第 11 回	第三テーマ(各班ごとに異なるテーマ)について、現状、問題点、解決策の調査・検討。
第 12 回	第三テーマについて、班ごとに、議論し、意見の相異を調整し、まとめる。
第 13 回	第三テーマについて、発表し、議論する
第 14 回	就職試験対策：配付資料に基づいて、学修し、テストし、就職試験に備える。
第 15 回	まとめ
第 16 回	期末レポートの提出

## 到達目標

大学生として学修するためには、その前提として、①早寝・早起き・ゼミ提出物等の期限を守るといった習慣が規律正しく実行できること、②将来の目標を何か一つ持つこと、が必要です。それらの前提を佐藤正勝ゼミで十分に養って、③大学での諸科目を学修するという最重要事項を達成することを目標としています。

## 履修上の注意

到達目標の①の観点から、授業への出席は、もちろん、宿題の提出期限の遵守は、とても重要です。社会人になったら、会社を欠勤したり、上司の指示に遅れて仕事をすることなど、ないように、今から練習しておくのが目的です。到達目標の②の観点から、(大谷翔平選手で有名になった)マンダラチャートによる将来目標設定が可能となるように、指導します。なお、大学生活において友人づくりは必須です。佐藤正勝ゼミでは、ゲーム的要素も取り入れて自己紹介を行う等、ゼミ生相互の理解と連帯感を醸成します。

## 予習・復習

予習は、①経済記事等（例：SDGs）の配付資料について、現状、問題点、解決策等を調べること、②自分の魅力は何か、を探してみることに、復習は、(作成担当ゼミ生から送信された)授業のポイントを、熟読して、授業内容の理解をさらに深めること、です。

## 評価方法

レポート、発表等への配点が70%、その他チェックテスト(就職試験テストを含む)等が30%の配点です。

## テキスト

- ・教科書名：なし（授業で独自資料を配布します）
- ・著者名：・出版社名：・出版年（ISBN）：

**授業概要**

経済経営学部において4年間専門分野で勉学するために役立つ、経済・経営分野の興味のある分野に関して、新聞、雑誌、書籍などから題材を求め、受講生の理解を深めるための勉学を進める。

また、興味がある分野の企業活動を通して問題・課題を抽出し、自分で調べて分析することで、解決策を導き出すといった考えるという勉強のやり方を身に付けると共に、調査・分析した結果はレポートにまとめて、授業の中で発表することで、大学生としての基礎力を修得することを目的としている。

**授業計画**

第1回	オリエンテーション
第2回	大学で学ぶとは何か
第3回	大学生の基礎
第4回	レポートの書き方
第5回	論文の書き方
第6回	先行研究の調査
第7回	関心のある企業を選択
第8回	関心のある企業の調査項目
第9回	企業の社会的役割に関するレポートの発表と討議
第10回	企業の経営と組織に関するレポートの発表と討議
第11回	企業の経営分析に関するレポートの発表と討議
第12回	経済新聞、ビジネス雑誌の読み方
第13回	経済新聞、ビジネス雑誌のトピックに関するレポートの発表と討議
第14回	課題に対するレポートの発表と討議
第15回	課題に対するレポートの修正と討議
第16回	定期試験

**到達目標**

- ・大学生としての基礎力である「読む、書く、伝える、話す」を修得する。
- ・問題、課題を抽出し解決する能力を身につける。
- ・複数の企業の経営内容を比較し、レポートにまとめることで調査・分析力を修得する。
- ・レポートの発表や質疑応答を通じて、ファシリテーターとしてのノウハウを身につける。

**履修上の注意**

- ・問題意識をもって質問する、あるいはグループワークにおいて、積極的に発言して議論すること。・・・
- ・予習、復習をきちんと行い、毎回出席すること。
- ・レポートの発表者以外の学生は質問或いは感想を述べるなど、必ず発言すること。

**予習・復習**

- ・事前に配布された資料はよく読んで理解すること。
- ・授業中に指示されたレポートは必ず提出すること。
- ・毎回授業後は復習することで、理解を深めること。

**評価方法**

- ・授業への参加意欲（20%）、課題提出（30%）、定期試験（50%）で総合評価します。
- ・授業態度が不良の場合は「不可」とします。

**テキスト**

- ・テキストは使用せず、適宜講義資料、新聞記事、雑誌記事などを配布します。

**授業概要**

教養演習の目的は、大学で学ぶ目標をしっかりと持つこと、学ぶ楽しさを知ること、そして読むこと、調べる  
こと、書くこと、発表すること、さらに他者とのコミュニケーション能力を高めることなど、今後の学修に必  
要なスキルを身につけることにある。大学で学ぶには、自分で自分の課題を見つけ、考え、解決に向けて進む  
意欲を持つことが大事である。履修者が大学生活を有意義に過ごせるようにサポートしていきたいと思う。

**授業計画**

第1回	オリエンテーション（授業内容、授業方法、評価方法などの説明）
第2回	大学生活に慣れる① 学内の規則を知り、様々な施設を上手に利用する
第3回	大学生活に慣れる② 履修計画を立てる
第4回	授業の受け方を体得する① 講義ノートの取り方
第5回	授業の受け方を体得する② テキストの読み方
第6回	授業の受け方を体得する③ レポート作成法
第7回	図書館ツアーに参加し、文献の検索方法を覚える
第8回	読書発表会①
第9回	読書発表会②
第10回	読書発表会③
第11回	グループ研究① 東京ディズニーリゾートの歴史
第12回	グループ研究② 東京ディズニーリゾートの経営戦略
第13回	グループ研究③ 東京ディズニーリゾートの人材育成戦略
第14回	グループ研究④ 東京ディズニーリゾートはなぜ成功したのか（映像）
第15回	春期内容の総括
第16回	期末試験

**到達目標**

- 1、大学の施設・設備を有効に活用できるようになる。
- 2、与えられた課題について調べ、自分の意見をまとめ、発表できるようになる。
- 3、大学での学び方を体得する。

**履修上の注意**

無断欠席・遅刻は慎むこと  
議論に参加し、積極的に発言すること

**予習・復習**

与えられた課題をしっかりと準備してください。

**評価方法**

発表内容、議論への参加度、課題への取り組み状況、期末試験を総合して評価する。

**テキスト**

『大学生学びのハンドブック』（世界思想社）を使う。プリントを配布するので、購入は不要。

**授業概要**

本教養演習では、2年次以降から本格的に始まる経済学や経営学の勉強に備えて、「経済」とは何か、「経営」とは何か、について考える場を提供したい。そのために一番良い方法は、経済新聞を読むことであろう。経済新聞には、前日までに発生した経済の動きが迅速に報道されており、またそれまでに発生した経済上の事件に関して簡単な解説も掲載されている。

また、証券市場が開設された翌日には、その市場での取引の様子を株式欄を見ることで経済の状況を知ることができる。どうせ就職活動を始めるところには、経済新聞を読みこなしていなければならないので、1年次の段階でどのように経済新聞を読みこなすべきか、について知っておいたほうが良いように思う。

**授業計画**

第 1 回	はじめに（本演習の進め方）
第 2 回	経済新聞の歴史をたどる
第 3 回	経済新聞に掲載されている記事とは何か
第 4 回	自分の興味のある産業の記事を読んでみよう
第 5 回	実物取引（金や石油）の記事はどこにあるか
第 6 回	経済新聞における文化欄の役割
第 7 回	経済新聞に掲載される小説の特徴
第 8 回	株式欄の読み方（1）
第 9 回	株式欄の読み方（2）
第 10 回	株式欄の読み方（3）
第 11 回	株式会社とは
第 12 回	経済において株式市場が重要なわけ
第 13 回	どのような会社の株が良い株なのか（1）
第 14 回	どのような会社の株が良い株なのか（2）
第 15 回	株式市場の発展に果たした経済新聞の役割
第 16 回	試験

**到達目標**

本演習の目的は、経済新聞を読みこなすことによって、経済や会社がどのような原理や原則で動いているか、について知る能力を蓄えることである。知りたい情報が経済新聞のどの部分に書かれているのか、を理解できたら目標は達成されたといえる。

**履修上の注意**

経済新聞を自宅ですべて持っている人は、その新聞を持ってきてもらいたい。自宅ですべて持っていない人は、駅売りのその日の経済新聞を買って持ってきてもらいたい。

**予習・復習**

経済新聞をよく読むこと。できれば自宅ですべてもらい、毎日目を通せば、十分な予習と復習になる。

**評価方法**

毎回の授業で受講者に多く質問をするので、それに的確に答えられるかどうか、で判断する。また、節目節目で小テストをすることも考えられる。

**テキスト**

その日の経済新聞を持ってきてもらいたい。どの経済新聞であるかは、問わない。ただし、私は一番よく読まれている経済新聞を持参するので、同じものであれば理解はしやすいものと思われる。

## 授業概要

教養演習Ⅰでは大学でのこれからの4年間に自分自身で学ぶべきことを考えていくように指導します。加えて大学での勉学に必要な知識、技能、学習態度を演習形式で指導します。

「演習」(ゼミ、ゼミナール)というのは大学で初めて登場する授業形式です。「演習」は座学形式の「講義」ではなく教員の指導の下で学生が自ら学習活動を行う授業になります。したがって学生の毎回の授業参加、課題提出、発表、質疑・討論が前提になっています。「演習」は学生同士が議論を通じて発言する能力や考える能力を伸ばしていく「演習」です。授業への主体的かつ積極的な姿勢が要求されます。

授業内容の詳細は、以下の授業計画ですが、この演習を履修登録した受講生の関心や研究希望の分野、学習能力を理解した後に決めます(したがって変更になる可能性があります)。

## 授業計画

第1回	授業ガイダンス 授業の内容と課題「新聞記事のスクラップ・ブック(+コメント)」の説明等
第2回	自己紹介(与えられた時間内で初めての人に自分を紹介し、アピールする訓練)
第3回	情報収集(新聞、雑誌、テレビ等のメディア)と注意点①
第4回	情報収集(パソコンやスマホ)と注意点②
第5回	ブックレポート(図書要約)の説明
第6回	情報収集(書籍)…学内図書館ツアー予定、文献ネット検索
第7回	本の読み方、買い方、使い方①
第8回	本の読み方、買い方、使い方②
第9回	「新聞記事のスクラップ・ブック」の発表①
第10回	文章を書く、文章が書けるという学卒の人生
第11回	文章の表現技術…文章での1行の文字数、一段落の行数、番号の順番ルール(I→1→(1)→①→イ)など
第12回	文章の約束…参考文献、参照文献引用、コピーペ(Copy and Paste)のルール。著作権、剽窃。
第13回	プレゼンテーション(準備、資料作成、発表の方法の技法)
第14回	ブックレポートの発表
第15回	「新聞記事のスクラップ・ブック」の発表②
第16回	総括 修正後のブックレポートの提出。

## 到達目標

文章のルール、レポートの書き方、新聞の読み方。レジュメの書き方、発表の仕方など大学時代に必要な基礎能力を取得する。高校生から大学生のレベルにステップアップする。

## 履修上の注意

授業で提示する課題「新聞記事のスクラップ・ブック+コメント」と「ブックレポート(図書要約)」を定められた指定日(複数回ある)に提出のこと。その作業、訓練を通じて自分の能力を伸ばしていく。

## 予習・復習

- ① 次回授業での発表用意
- ② 「新聞記事のスクラップ・ブック+コメント」と「ブックレポート(図書要約)」

## 評価方法

新聞スクラップ・ブックの発表(20%×2)、ブックレポートの発表と提出(30%)、受講態度30%を予定している。詳細は授業で説明します。

なお、毎回の発表に対してはフロアの学生(発表者以外の学生)による評価が行われる。しかしこれは発表した学生が自分を成長させていくための参考評価データとし、成績評価では勘案しない。

## テキスト

授業時に紹介する。新聞(webでも代替可)とブックレポートでの本は読む。

**授業概要**

教養演習の課題は、大学で学ぶ目標をしっかりと持つこと、学ぶ楽しさを知ること、及び、読むこと、調べること、書くこと、報告することなど今後必要なスキルを修得することにある。大学で学ぶには、自分で自分の課題を見つけ、考え、解決に向けて進む意欲を持つことが大事になる。

**授業計画**

第1回	概要
第2回	大学を知る
第3回	ノートのとり方を学ぶ
第4回	テキストの読み方を学ぶ
第5回	レポート作成法を学ぶ
第6回	パソコンやスマホで情報収集する
第7回	新聞で情報収集する
第8回	時事問題を考える
第9回	図書館ツアーの実施、ネット検索などの方法を学ぶ
第10回	議論の仕方を学ぶ
第11回	プレゼンテーション①準備
第12回	プレゼンテーション②資料作成
第13回	プレゼンテーション③発表
第14回	プレゼンテーション④発表
第15回	レポート作成
第16回	期末テスト

**到達目標**

- 大学の施設・設備を有効に活用できるようにする。
- 自分の課題について調べ、意見をまとめ、表現することができる。
- 政治や経済の時事問題が企業人・社会人にとって不可欠の問題であることを知る。
- 大学での学び方を体得する。

**履修上の注意**

1年次の学生は全員履修である。この演習の目的は、大学で学ぶための目標をしっかりと持つことにある。このため、よく調べて自分の意見をまとめ、授業時間内には仲間同士で積極的に議論して欲しい。なお、学外活動を行う場合がある

**予習・復習**

予習・復習は積極的に行い、授業中に指示された課題は必ず提出すること。

**評価方法**

授業への取り組み、課題の提出状況、レポートまたは試験により総合的に評価する

**テキスト**

指定しない

**授業概要**

大学生が卒業時まで身に付けておきたい態度や能力として「社会人基礎力」という考え方が参考になります。「社会人基礎力」とは、社会で活躍している人たちが身につけている態度や能力の基礎部分を整理した考え方ですが、大きく捉えると、考え抜く力・チームで働く力・前に踏み出す力の3つから成ります。そして、これらは、高校生までよりも大学生においてより一層重視されるようになる力でもあります。

そこで、この演習では、これらの能力等について学んでもらい、その後、皆さんの関心のあることについて話し合い、チームで調査するテーマを決め、実際に調査し、考察し、発表するという一連の流れを体験してもらうことで、考え抜く力（課題発見能力・考察能力・課題解決能力）、チームで働く力（コミュニケーション能力・協調性）、前に踏み出す力（主体性・実行力・プレゼンテーション能力）を伸ばしていきます。

**授業計画**

第 1 回	はじめに（教養演習Ⅰの目標と進め方）・自己紹介
第 2 回	大学生活と大学での学び（社会人基礎力等）
第 3 回	課題発見と課題解決、コラボレーション
第 4 回	考察の進め方・調査テーマの話し合い①
第 5 回	調査テーマの話し合い②（テーマ決定）・班分け
第 6 回	テーマについての班ごとの話し合い
第 7 回	調査計画立案（調査内容・調査スケジュール・分担）
第 8 回	文章表現①（構成・文章）
第 9 回	プレゼンテーションの方法①（相手にどう伝える）
第 10 回	プレゼンテーションの方法②（表現上の技法）
第 11 回	中間発表
第 12 回	文章表現②（引用・参考文献）
第 13 回	文章表現③（著作権）
第 14 回	プレゼンテーションの方法③（発表の仕方）
第 15 回	まとめ作業
第 16 回	最終発表

**到達目標**

大学時代に身につけておきたい態度や能力とは何であるかについての理解を深める。  
考え抜く力・チームで働く力・前に踏み出す力を高校生の段階から大学生の段階へとレベルアップする。  
文章表現、プレゼンテーション方法についての理解を深める。

**履修上の注意**

「社会人基礎力」育成のプロセスを1年次に経験した学生は就活において高く評価されるということが分かっています。この演習ではそのとでも実績のある手法でゼミを行います。関心のある方の参加を求めます。  
なお、チームでの活動になりますので、お互いに協力し、積極的に参加するという姿勢がとても大切です。

**予習・復習**

予習：事前に出された課題を行ってください。

チームで決めた準備をしておいてください。

復習：演習内容を復習し、チームで決めた調査等を共同で実施してください。

**評価方法**

演習への取り組み姿勢（20点）、中間発表（30点）、最終発表（50点）で総合的に評価します。合計100点のうち50点以上を取れば合格となります。ただし、出席回数が10回に満たない人は成績評価できませんので注意してください。また、チームでの活動ですが、発表は全員行います。

**テキスト**

教科書は使いません。

学習用の資料を配布します。

**授業概要**

大学に入学して、これからどう大学生活を有意義に過ごしていくかを考えることが必要です。これからの4年間に自分自身を見つめて、社会や企業や情報技術の知識を身に付けながら、自分が学ぶべきことを考えます。また、この大学には、データサイエンス科目群があり、私はこの科目を担当していますので、興味のある学生向けに、ITC や AI (人工知能) の勉学に必要な知識、技能など基本となることを座学と演習で学びます。「演習」(ゼミ、ゼミナール) というのは大学で初めて登場する授業形式です。学生が自ら学習活動を行う授業になります。グループ学習を取り入れて、学生には、それぞれ発表する機会を作ります。課題提出、発表などを楽しく行って行きます。(PC 演習室を使用する予定です)

**授業計画**

第 1 回	オリエンテーション
第 2 回	自己紹介 (自分で説明する資料を作成してくる)
第 3 回	大学生活で何をしたいかを考える
第 4 回	情報収集(書籍) …学内図書館ツアー予定、文献ネット検索
第 5 回	テーマの決め方と情報収集の方法
第 6 回	レポートの書き方
第 7 回	最近の政治経済の記事、注目のテーマを新聞、雑誌、書籍などから選び発表するー1
第 8 回	最近、ITC や AI のテーマを新聞、雑誌、書籍などから選び発表するー2
第 9 回	プレゼンテーションとは
第 10 回	社会の変化と情報通信技術について考える
第 11 回	ITC (情報通信技術) を使った新しいビジネスを調べる
第 12 回	情報通信技術を使った新しいビジネス事例を調査する
第 13 回	各自が選択した新しいビジネス事例をレポートにまとめる
第 14 回	新しいビジネスモデルについて発表する
第 15 回	グループワークとして、新しいビジネスモデルを考える
第 16 回	グループ毎に発表し、質疑応答する

**到達目標**

本演習の目的は、大学生として大学で学ぶ意味や目的を考え、理解すること。そして、学習する基礎となる思考力、情報収集力、読解力、記述力、プレゼンテーション能力を高める。その方法として、新聞、雑誌、書籍、インターネットなどから情報を収集し、情報を読みこなすことによって、経済や会社がどのような原理や原則で動いているか、人はどう判断するかなどについて知る能力を蓄えることである。

**履修上の注意**

- 1) 病気などの場合を除いて、毎回欠かさず出席してください。欠席の場合は、メールで事前に連絡してください。遅刻の場合は理由を説明してください。
- 2) 演習のメンバーの意見を理解し、それに対して自分の考えを述べられるように心掛けてください。
- 3) パソコンの Word, Excel, PowerPoint, メールを使用する。

**予習・復習**

- ・事前に配布された資料はよく読んで理解すること。
- ・NHK 高校講座「政治経済」「数学Ⅱ」を事前に学習することが望ましい。

**評価方法**

小テスト、レポート、発表等への配点が80%、授業での発言、貢献等の積極性が20%の配点です。

**テキスト**

- ・テキストは使用せず、適宜講義資料、新聞記事、雑誌記事などを配布します。

### 授業概要

本演習は、経営学専攻の学生にとっての「入門の入門」と位置づけ、経営学の基礎を概括的に修得するよう指導します。演習は配布するレジメを用いて進めます。1年次前期の学生が履修生となることを勘案し、議論への参加方法、講義中のノートのとり方等、基本的事項等についても指導します。

国内外における銀行、メーカー、商社3業種での講師の勤務経験を生かして講義を行います。経営学は新しい学問であるため日々進歩しています、最新テーマや時事的な話題を可能な限り多く盛り込みます。

学んだ知識をもとに日本経済新聞や経営関連誌を自主的に読み進める習慣を身につけることは重要であり、履修生にはタイムリーな話題を提供して演習を活性化します。

### 授業計画

第1回	ガイダンス —大学での経営学の学習方法—
第2回	企業の理解
第3回	企業の内部構造
第4回	コーポレート・ガバナンス
第5回	環境変化と企業の対応
第6回	企業経営と経営理念
第7回	経営戦略とは何か
第8回	事業システムの理解
第9回	マーケティングの理解
第10回	企業組織をどうつくるか
第11回	組織の中で人を動かす
第12回	財務と会計の役割を理解する
第13回	企業評価
第14回	企業環境の変化と新しい経営学
第15回	演習のまとめ

【注意】 対面授業、オンライン授業に関わりなく、課題レポートは15回全て提出すること。

### 到達目標

本演習の到達目標は、履修生に経営学の概要を理解させるとともに、大学での学びの姿勢や技術を修得させることです。社会人経験のない学生が、経営学の基本的事項について臨場感をもって修得することができるよう、レジメ以外の教材や資料からできる限り頻繁に今日的话题を引用します。

### 履修上の注意及び予習・復習

演習で取り上げるテーマをもとにレジメの該当箇所について議論する場合、履修者は積極的に参加することが求められます。演習に参加するにあたっては、Teams に貼付するレジメを読んでおくことが必要となります。遅刻はやむを得ない理由がある場合には配慮します。

### 評価方法

毎回の講義ごとに出される課題レポートの結果を70%、演習への参画度や取り組み姿勢を30%の割合で評価します。

### テキスト

テキストはレジメを使用します。参考文献は各講義で明示します。